出来始めた土台 充実の3連勝

駒澤大学1－0東海大学

勝利に喜ぶ主将三澤ら
（撮影：佐藤　亮）

５月 20 日　13：50　東海大学湘南校舎サッカー場

駒大（３位）	1	（１－０）（０－０）	0	東海大（６位）

得点者（ｱｼｽﾄ）

[駒]８分平野

KOMAZAWA	TOUKAI
GK①大石健太(3)	GK①山﨑友斗(4)
DF⑩大木暁(2)	DF㉗水橋法彦(2)
DF④三澤祥馬(4)	DF③小山真司(3)
DF⑬平尾優頼（2）	(78 分④満田健太(4))
DF③田中雄一(3)	DF②元田諒介（3）
MF㉖若山瞭太(3)	DF⑥池田康平(4)
MF⑧碓井鉄平(3)	MF㉞寺尾俊祐(1)
(92 分⑳荒井裕介(4))	MF⑦松本敬幸(4)
MF㊲平野篤志(1)	MF⑮湯川純平(2)
(66 分⑦奥村情(4))	MF⑳大村亮平(3)
MF⑨山本大貴（3）	(64 分㊲森田努(1))
(88 分㊳菊池翔太(1))	FW⑨忍穂井大樹(4)
MF⑪湯澤洋介（4）	FW⑩榎信博（4）
FW⑤宮城雅史(4)	(45 分⑭塩田光（3))
S　U　B	S　U　B
GK㉑檜山昇吾(3)	GK㊶内山圭（1）
DF㊴奥田陸（2）	DF⑱太田代飛鳥（2）
MF⑯水野裕之（3）	MF⑬野口大輔(2)
MF㊲中村駿(1)	MF㉓伊藤優作(4)
MANAGER	MANAGER
秋田浩一	今川正浩

[シュート]16:6 [GK]4:19 [CK] 10:2 [直接FK]8:26
[間接FK]1:5 [主審]宇治原　拓也 [観衆]約 186 人

警告(C)／退場(S)

[駒]17 分湯澤洋介(C5)　[東]18 分小山真司(C1)
[駒]23 分若山瞭太(C2)
[駒]27 分山本大貴(C2)
C1:反スポーツ行為　C2:ラフプレイ　C5:遅延行為

“ＦＷ宮城”采配ズバリ

試合前、ひとつのサプライズがあった。最終ラインで多少のメンバー変更がある中、ＦＷには本来ボランチである宮城が先発。“ＦＷ宮城”がどんな活躍を見せるのか注目が集まった。

結果から言えばこの起用が当った。「（ＦＷでの出場だったが）前からプレスという役割。ヘディングで競り勝つのも大事」（宮城）と語った通り、攻撃ではロングボールに対して競り勝ち、守備では前節からはまり始めているプレスの始点になるなど、攻守両面において活躍。宮城の特長である競り合いの強さ、速いプレスが違う形で生かされた。

開始から宮城の奮闘などでペースをつかむと８分、左サイドの湯澤がドリブルで仕掛けてクロスを上げると、そのこぼれ球をルーキー平野が３戦連続となるボレー弾で先制点をあげる。その後も攻め続ける駒大。19 分には碓井のＦＫから若山のヘッドがバーに当たるなど、前半だけでシュートは相手の３倍となる９本。終始駒大ペースで前半を終える。

後半に入っても流れは変わらない。だが、51 分に大木からのクロスを碓井が決めきれないと、続く 53 分にも平野のクロスから宮城が決定機を迎えるが、シュートはキーパーの正面。

チャンスを生かしきれないでいると、「後半半ばから足が止まった」と主将三澤が振り返った通り、運動量が落ち、徐々に相手にボールを持たれ始める。しかし、悪い流れを感じた選手達は素早くブロックを形成し、集中した守備で相手にチャンスを作らせない。

すると駒大は攻めあぐねて間延びし始めた相手に対し、鋭いカウンターを連発。75 分にはカウンターから得たＦＫを碓井が直接狙うもまたしてもバーに当たってしまう。その後は宮城をボランチに戻すなど徹底した守備で逃げ切り試合終了。90 分通してゲームを支配しての勝利となった。

試合後、「負ける気がしなかった」と平尾が語ったように、追加点こそ奪えなかったものの、相手に一切のチャンスを作らせないなど、スコア以上の完勝だった。充実した内容に主将三澤も思わずガッツポーズ。今後に大きな期待を抱かせた。

順位は３位と変わらなかったが、着実に土台は出来始めている。内容の伴った一勝は序盤戦の単なる勝ちとは訳が違う。選手達の表情にも自信が表れてきた。３連勝。これは決して偶然ではない。　（猪熊脩登）